

1～3月期の業況は低下

【特別調査】 - 「外国人・海外情勢と中小企業」

【調査要領】

調査時点：2020年3月上旬

調査対象：西兵庫信用金庫お取引先102社

調査方法：調査票を用いた面接による聞き取り調査

調査企業数：102社

調査票回収：102社

調査対象地域：西播磨地域（宍粟市、相生市、赤穂市、たつの市、揖保郡、赤穂郡、佐用郡）

分析方法：D.I. (デフュージョン・インデックス) による分析
景気の方角感を判断するために使う指数。各質問項目で、「良い」と答えた割合から、「悪い」と答えた割合を引いて算出する。

(例)

| | 良い | 普通 | 悪い | 合計 |
|-----|----|----|----|----|
| 回答数 | 10 | 5 | 5 | 20 |

(良い)50% - (悪い)25% = (D.I.)25

回答企業の業種別内訳

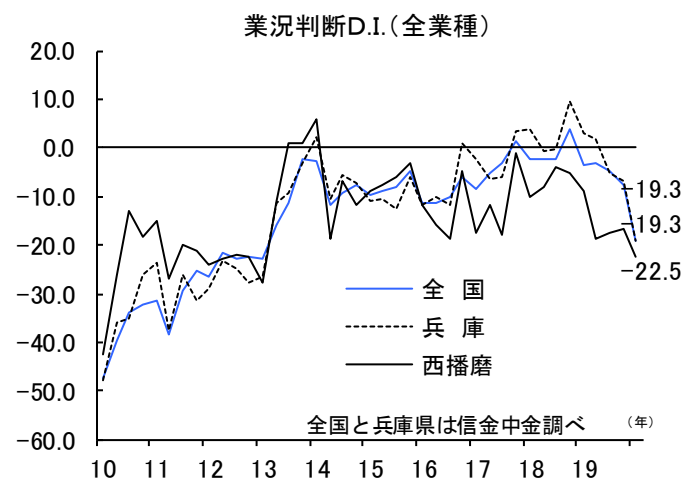
| 業種 | 回答企業数 |
|-------|-------|
| 製造業 | 32 |
| 卸売業 | 11 |
| 小売業 | 17 |
| サービス業 | 19 |
| 建設業 | 18 |
| 不動産業 | 5 |
| 総計 | 102 |

全業種総合

～景況感は低下～

20年1～3月期（今期）の業況判断D.I.は△22.5と、前期比5.8ポイント低下した。前期に比べ業況が「良い」と回答した企業が4.9ポイント低下し、「悪い」と回答した企業の割合も0.9ポイント上昇したことによる。前年同期比の売上判断D.I.は△23.5と前期比15.7ポイント低下し、同収益判断D.I.は△26.5と前期比13.8ポイント低下した。

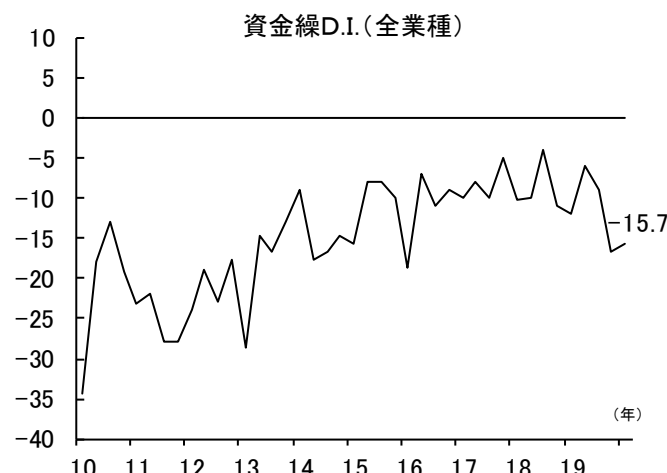
業種別の業況判断D.I.は、卸売業・建設業で改善した一方、製造業・小売業・サービス業で低下した。不動産業は横ばいとなった。西播磨ではコロナウイルス感染拡大により製造業、建設業で部材の調達遅れや一部サービス業で予約のキャンセルなどの影響がみられた。



【業種別天気図】 過去4四半期の業況判断D.I.を平均して判定

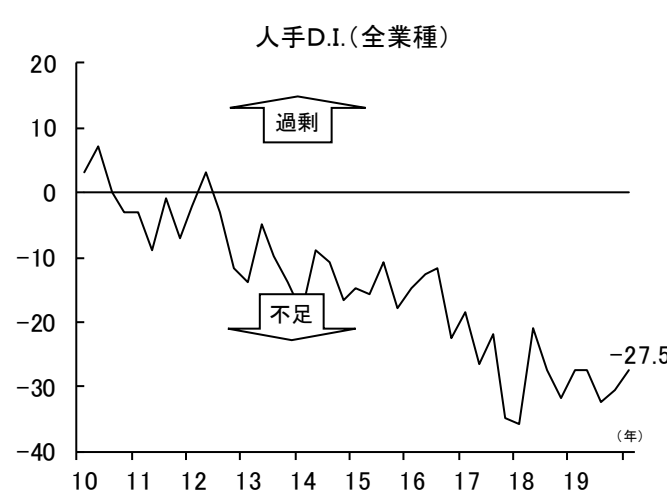
| 時期 | 2019年10～12月 | 2020年1～3月 | 2020年4～6月(見通し) |
|-------|-------------|-----------|----------------|
| 総合 | | | |
| 製造業 | | | |
| 卸売業 | | | |
| 小売業 | | | |
| サービス業 | | | |
| 建設業 | | | |
| 不動産業 | | | |

快晴 晴れ 晴れ時々曇 うす曇 曇 雨 大雨
 好調 ← → 低調



～販売価格判断D.I.は低下・仕入価格判断D.I.は低下～
販売価格判断D.I.は△2.0と、前期比5.9ポイント低下した。仕入価格判断D.I.は、18.6と前期比4.9ポイント低下した。

～資金繰り判断D.I.は低下～
資金繰り判断D.I.は△15.7と、前期比1.0ポイント改善した。業種別では、卸売業が前期比27.3ポイント、サービス業が同21.0ポイント改善した。一方、製造業が前期比6.2ポイント、小売業が同17.7ポイント、建設業が同5.6ポイント低下した。不動産業が横ばいとなった。



～人手過不足判断D.I.は、人手「不足」感が弱まった～
雇用面では、人手過不足判断D.I.が△27.5（マイナスは人手「不足」超）と前期比2.9ポイント改善した。残業時間判断D.I.は△11.8と、前期比11.8ポイント低下した。残業時間が「減少」したとする企業の割合が増加したことによる。

～設備投資実施企業割合は低下～
設備投資実施企業割合（不動産業を除く企業のうち設備投資を実施した企業の割合）は19.6%と、前期比19.6ポイント低下した。



～来期の景況感は今期実績比低下する見通し～
来期の予想業況判断D.I.は△33.3と今期実績比10.8ポイント低下する見通しとなっている。業種別の予想業況判断D.I.は、小売業が今期実績比11.8ポイント、不動産業が同20.0ポイント改善する見通しである。一方、製造業が今期実績比31.3ポイント、卸売業が同9.1ポイント、サービス業が同10.5ポイント、建設業が同5.5ポイント、それぞれ低下する見通しである。

<経営上の問題点>

経営上の問題点としては、「売上の停滞・減少」が36%、「人手不足」が33%、「利幅の縮小」が25%、「同業者間の競争の激化」が20%、と多く、その他では「人件費の増加」が18%となっている。

| 経営上の問題点 | | |
|---------|------------|-----|
| 順位 | 全業種 | 割合 |
| 1位 | 売上の停滞・減少 | 36% |
| 2位 | 人手不足 | 33% |
| 3位 | 利幅の縮小 | 25% |
| 4位 | 同業者間の競争の激化 | 20% |
| 5位 | 人件費の増加 | 18% |

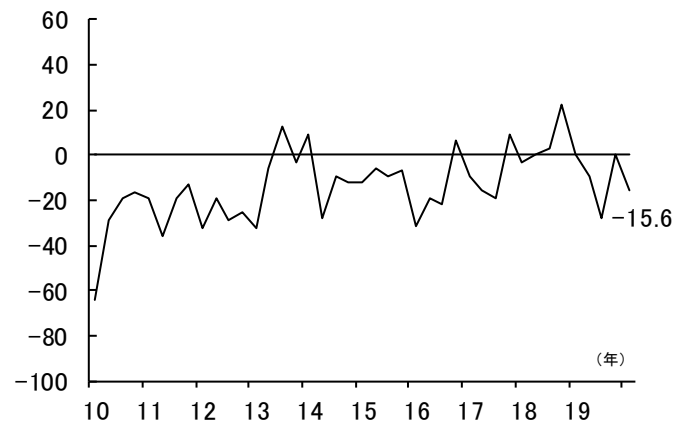
<当面の重点経営施策>

当面の重点経営施策としては、「経費を節減する」が53%、「販路を広げる」が40%、「人材を確保する」が34%と多く、その他では「情報力を強化する」が19%、「宣伝・広告を強化する」が15%、「提携先を見つける」が8%となっている。

| 当面の重点経営施策 | | |
|-----------|------------|-----|
| 順位 | 全業種 | 割合 |
| 1位 | 経費を節減する | 53% |
| 2位 | 販路を広げる | 40% |
| 3位 | 人材を確保する | 34% |
| 4位 | 情報力を強化する | 19% |
| 5位 | 宣伝・広告を強化する | 15% |
| 6位 | 提携先を見つける | 8% |

製造業

業況判断D.I.(製造業)



～製造業の景況感は低下～

今期の業況判断 D.I.は△15.6 と、前期比 15.6 ポイント低下した。

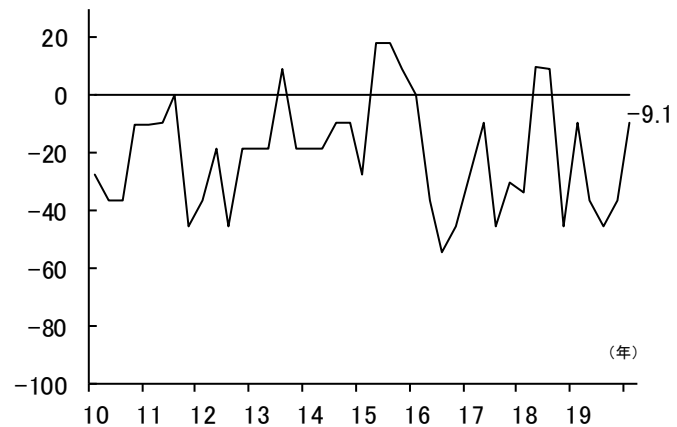
前年同期比売上額判断 D.I.は△18.8 と前期比 15.7 ポイント、同収益判断 D.I.は△21.9 と前期比 21.9 ポイント低下した。

設備投資実施企業割合は 25.0%と、前期に比べて横ばいとなった。資金繰り判断 D.I.は△15.8 と、前期比 6.2 ポイント低下した。人手過不足判断 D.I.は、△18.8 (前期△28.1) と人手不足感は弱まった。

来期の予想業況判断 D.I.は△46.9 と今期実績比 31.3 ポイント低下を見込んでいる。

卸売業

業況判断D.I.(卸売業)



～卸売業の景況感は改善～

今期の業況判断 D.I.は△9.1 と、前期比 27.3 ポイント改善した。

前年同期比売上額判断 D.I.は△9.1 と前期比 18.2 ポイント低下した一方、同収益判断 D.I.は△9.1 と前期比 9.1 ポイント改善した。

資金繰り判断 D.I.は 9.1 と、前期比 27.3 ポイント改善した。人手過不足判断 D.I.は、△36.4 (前期△27.3) と人手不足感は強まった。

来期の予想業況判断 D.I.は△18.2 と、今期実績比 9.1 ポイント低下を見込んでいる。

小売業

業況判断D.I.(小売業)



～小売業の景況感は低下～

今期の業況判断 D.I.は△35.3 と前期比 5.9 ポイント低下した。

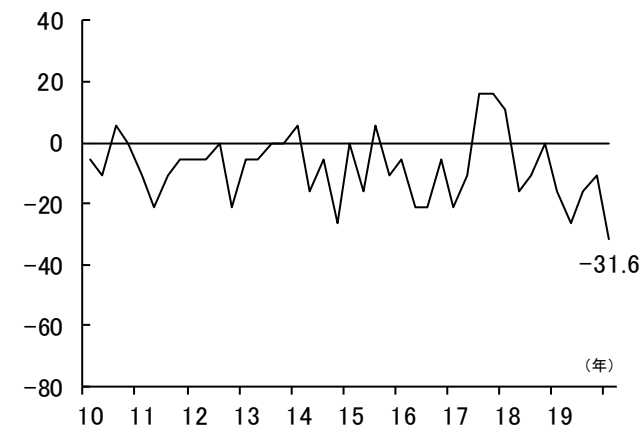
前年同期比売上額判断 D.I.は△17.6 と前期比横ばいとなった。同収益判断 D.I.は△17.6 と前期比 5.9 ポイント改善した。

資金繰り判断 D.I.は△47.1 と、前期比 17.7 ポイント低下した。人手過不足判断 D.I.は、△17.6(前期△35.3) と人手不足感は弱まった。

来期の予想業況判断 D.I.は△23.5 と、今期実績比 11.8 ポイント改善を見込んでいる。

サービス業

業況判断D.I.(サービス業)



～サービス業の景況感は低下～

今期の業況判断 D.I.は△31.6 と、前期比 21.1 ポイント低下した。

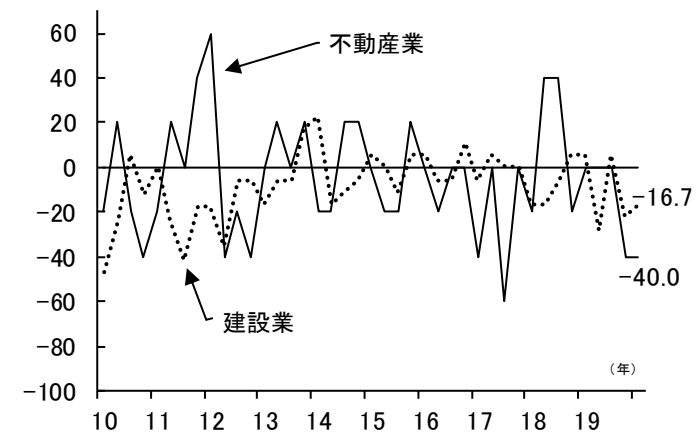
前年同期比売上額判断 D.I.は△31.6 と前期比 31.6 ポイント低下した。同収益判断 D.I.は△36.8 と前期比 26.3 ポイント低下した。

資金繰り判断 D.I.は△5.3 と前期比 21.0 ポイント改善した。人手過不足判断 D.I.は△26.3 (前期△31.6) と人手不足感は低下した。残業時間判断 D.I.は△10.5 と、前期比 5.3 ポイント低下した。

来期の予想業況判断 D.I.は△42.1 と、今期実績比 10.5 ポイント低下を見込んでいる。

建設業、不動産業

業況判断D.I.(建設・不動産業)



～建設業の景況感は改善～

今期の建設業の業況判断 D.I.は△16.7 と前期比 5.5 ポイント改善した。前年同期比売上額判断 D.I.は△38.9 と前期比 22.2 ポイント低下した。同収益判断 D.I.は△44.4 と前期比 27.7 ポイント低下した。受注残判断 D.I.は△5.6 と、前期比 11.1 ポイント改善した。

資金繰り判断 D.I.は△16.7 と、前期比 5.6 ポイント低下した。人手過不足判断 D.I.は、△50.0(前期△33.3) と、前期比 16.7 ポイント低下し、人手不足感は強まった。来期の予想業況判断 D.I.は△22.2 と、今期実績比 5.5 ポイント低下を見込んでいる。

～不動産業の景況感は横ばい～

不動産業については、調査対象先の少なさを考慮する必要があるが、今期の業況判断 D.I.は△40.0 と前期比横ばいとなった。前年同期比売上額判断 D.I.は△20.0 と前期比 20.0 ポイント改善した。同収益判断 D.I.は△20.0 と、前期比 20.0 ポイント改善した。資金繰り判断 D.I.は 0.0 と、前期比横ばいとなった。在庫過不足判断 D.I.は 20.0 と、前期比 20.0 上昇した。来期の予想業況判断 D.I.は△20.0 と、今期実績比 20.0 ポイント改善を見込んでいる。

調査員のコメント

製造業：コロナウィルスの影響により、家具製造に使用する金具や木材の一部が調達できない状況である。高価な国内の部材で対応しているのでやや資金繰りが忙しくなっている。

卸売業：国の林業成長産業化政策等により取扱量が増加傾向にある。

小売業：人口減少と価格競争から売り上げ減少が続いている。

サービス業：コロナウィルスの影響でツアーキャンセルが相次いでいる。長期化すれば業況に大きく影響してくると予想される。

建設業：コロナウィルスの影響で部材の入手が困難になっている。今後の不安が大きい。